

小児科初期研修カリキュラム
研修実施施設： 社会医療法人生長会ベルランド総合病院

<一般目標 GIO: General Instructional Objectives>

厚生労働省の臨床研修到達目標に基づき、医師としての人格を涵養し、プライマリ・ケアを遂行しうる臨床医を基本とし、特に小児科疾患全般の診療に必要な基本的知識、技能、及び医師として必要な態度を身につけることを目標とする。

基本研修(1ヶ月)

小児科の特性について理解し、実践的(な対応)能力を身につける。

<行動目標 SBO: Specific Behavioral Objectives>

1. 一般的診療技術及び知識

- ・基本的な小児疾患の特異性と普遍性を理解し、習得する。
- ・患者記録の重要性を理解し、親から病歴、既往歴、家族歴などを要領よく聴取し、的確な患者記録を作成する。
- ・小児の正常な身体発育、精神発育、生活状況を理解し、年齢差による特徴を理解する。
- ・指診、触診により、患児の全身状態を把握できる(脱水、チアノーゼ、咽頭発赤、肝脾腫等の有無)。
- ・呼吸音、心音、腸音の聴診所見がとれる。
- ・発疹のある患児の所見を述べることができ、その鑑別をすることができる。
- ・腹痛、嘔吐、下痢のある患児の腹部所見をとることができ、その疾患の診断をすすめていくことができる。
- ・痙攣や意識障害のある患児の神経学的所見をとることができる。

2. 各種診察法、処置

- ・単独、又は指導者のもとで採血、注射(皮内、皮下、筋肉、点滴)ができる。
- ・指導者のもとで胃洗浄ができる。
- ・X線写真、超音波、MRI検査を理解し、判読できる。

3. 治療

- ・小児の年齢別の薬用量を理解し、それに基づき一般薬剤を処方できる。
- ・年齢、疾患に応じて、輸液の種類、量を定めることができる。

4. 救急医療

- ・小児の緊急疾患の基本的知識と技術を身につける。
 - ア. 気管支喘息の応急処置ができる。
 - イ. 痙攣の応急処置ができる。
 - ウ. 異物誤飲に対し、指導医のもとに胃洗浄ができる。

5. 小児科において経験すべき疾患・病態

- ・小児けいれん性疾患
- ・小児ウイルス感染症(麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ)
- ・小児細菌感染症
- ・小児喘息
- ・先天性心疾患
- ・発育不良(低身長)
- ・発達障害

<方略 LS: Learning Strategies >

見学のみならず実際に診療に参加し、問題点を提起し、対策を講じていく。

	午前	午後
月	小児科病棟、外来	小児科病棟、救急外来、喘息外来、フォローアップ外来、ワクチン外来、1ヶ月健診
火	小児科病棟、外来	小児科病棟、救急外来、神経外来、フォローアップ外来
水	小児科病棟、外来	小児科病棟、救急外来、神経外来、フォローアップ外来
木	小児科病棟、外来	小児科病棟、救急外来、フォローアップ外来、代謝・内分泌外来、アレルギー外来
金	小児科病棟、外来	小児科病棟、救急外来、神経外来、フォローアップ外来、1ヶ月健診
土	小児科病棟、外来	小児科病棟、救急外来、アレルギー外来、フォローアップ外来、神経外来、心エコー外来

<研修評価 EV: Evaluation>

- ① 研修目標の各項目について、自己評価及び指導医評価を行う。
- ② 自己評価:EPOC および事後レポートを用いて自己評価を行う。
- ③ 指導医による評価:EPOC およびレポート等を用いて評価する。